

松江市 報道提供資料

令和6年2月6日

件名

松江歴史館ミニ展示「明治のお仕事——松江の写真師——」の開催について

内容

松江歴史館では、小さな展示スペースで、新収蔵品や四季折々の作品などを紹介する、ミニ展示を開催しています。今回は旧松江藩士の職業選択にスポットをあてる館蔵品展「明治時代のサムライたち——松江藩士の行く末——」の開催にちなみ、明治時代に普及した写真技術を使う職業「写真師」を取り上げて展示します。

会期: 令和6年3月31日(日)まで

開館時間: 9:00～17:00

休館日: 毎週月曜日休館 ※ただし2月12日(月)は開館、翌日休館。

会場: 松江歴史館 展示ホール

観覧料: 無料

注目点

- ・ 明治時代に松江殿町で開業した「村田写真店」の看板を展示します。ケースいっぱいの大きさと、荒川亀齋作と伝わる彫刻の迫力が見どころ。
- ・ 母衣町時代の村田写真館が写り込む、昭和4年のホーランエンヤの様子もパネルで展示。

【問い合わせ】

文化スポーツ部 松江歴史館 担当: 笠井 電話: 0852-55-5511

明治のお仕事

— 松江の写真師 —

松江の写真事始め

西洋の文物に強い関心を寄せた松江藩松平家九代^{なりたけ}齊貴は、隠居後の姿を写真に収めました。文久2年(1862)頃、剃髪で和装姿の座像を写した10.8cm×8.0cmのガラス乾板が、島根県に残る最古の写真と言われています。同時に齊貴は長崎の上野^{うえの}彦馬^{ひこま}のもとへ二人の人物を派遣し、写真技術^{もりたれい}を学ばせました。その内の一人、森田礼造^{ぞう}は慶応元年(1865)に山陰地方初の写真館を松江で開業しました。



洋装裁縫調進並時計
森田禮造

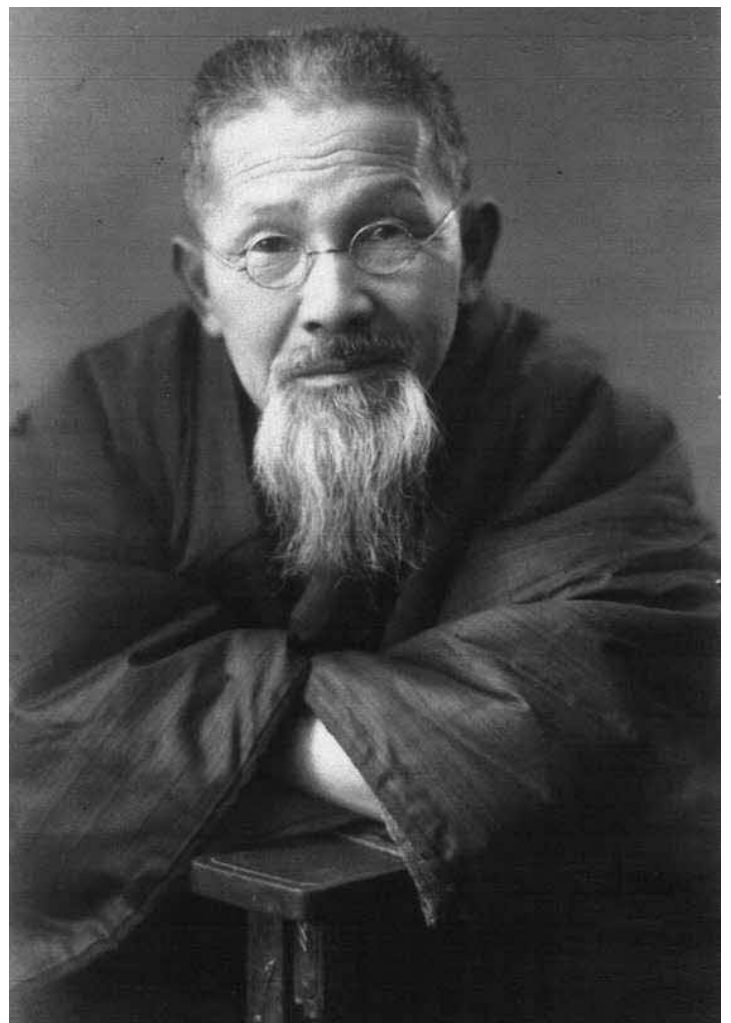
松江殿町の森田礼造商店

『山陰道商工便覧』明治20年(1887)発行
出典：国立国会図書館デジタルコレクション
(<https://dl.ndl.go.jp/pid/803666/1/14>)

松江の写真師

明治時代になると、森田礼造に続いて松江で開業する写真師が現れます。明治4年(1871)には吾郷^{あごうじゅうじろう}重治郎^{すえつくほんまち}が末次本町で写真所を営業していたことが分かっています。雑賀町^{さいかまち}で生まれた立花善満^{たちばなよしみつ}は、松江藩の歩兵から写真師へ転身しました。明治43年(1910)2月、松江写真同業組合に加盟していた写真師は11名にのぼります。

松江の写真師の一人、^{むらたせいうん}村田青雲^{しやうきち}こと^{むらたせいうん}村田正吉
昭和時代初期頃撮影か、写真は個人蔵



寫真料金の前拂ノ事
右ハ來ル二十五日ヨリ實行ス

今同業者申合ノ上寫真料金
協定及ヒ料金ノ割引等ヲ全廢
致シ候此段四方愛顧諸君ニ謹
告ス

寫真料金の前拂ノ事
引全廢廣告

松江写真同業組合
組合員姓名

- 森田禮造
- 福井賢藏
- 齋藤芳男
- 深田村田
- 大野恒次郎
- 大野善正
- 板持正隆
- 立花善滿
- 大野義守

松江写真同業組合員の名前が並ぶ新聞広告

『山陰新聞』明治43年(1910)2月22日発行
島根県立図書館蔵マイクロフィルムより

写真師 村田正吉

明治43年(1910)の松江写真同業組合員に名を連ねる村田青雲は、山口県の萩唐樋町から松江に進出した写真師です。本名を村田正吉(庄吉、政吉とも書く)といいます。養父の村田慎吾は、森田礼造と同じく長崎の上野彦馬のもとで技術を身に着けた写真師で、明治9年(1876)に起こった土族反乱「萩の乱」を撮影したことで知られます。村田正吉は、明治20年代に山口から出張して撮影を行い、後に

拠点を松江に移して、当時珍しい洋館の店舗を殿町に設けました。展示品はその写真館に掲げた看板で、彫工荒川亀齋が手掛けたものと伝わります。村田写真館は母衣町に移転しますが、看板は新しい店でも使われました。昭和4年(1929)のホーランエンヤを撮影した写真に、看板を掲げる母衣町の村田写真館が写り込んでいます。村田写真館は正吉の子武夫が跡を継ぎ、昭和24年(1949)まで営業しました。



村田写真館の看板

明治時代、伝荒川亀齋作、木製
写真看板(中央)幅54cm、高さ96.3cm、厚さ5cm
看板装飾(右、左)幅123cm、高さ43cm、厚さ15cm

看板を掲げる母衣町時代の村田写真館

昭和4年(1929)撮影、写真は個人蔵
大きな建物は出雲電気本社。現在の中国電力島根支社あたりに建っていた。その3軒となりに村田写真館はあった。

